

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立海道小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	32人	国語B	32人
② 算数A	32人	算数B	32人
③ 理科	32人		

5 留意事項

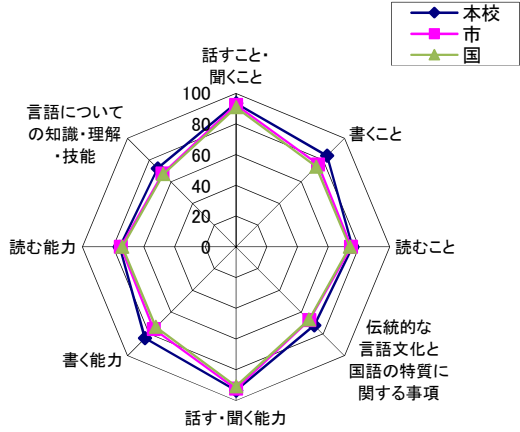
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立海道小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

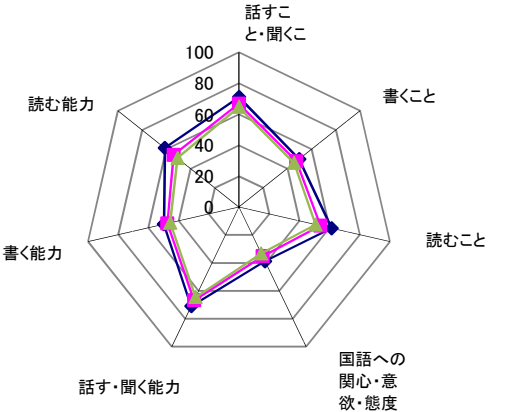
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	93.5	92.4	90.8
	書くこと	83.9	75.7	73.8
	読むこと	75.8	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.2	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	93.5	92.4	90.8
	書く能力	83.9	75.7	73.8
	読む能力	75.8	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	72.2	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	71.0	66.8	64.6
	書くこと	49.7	47.4	45.6
	読むこと	61.3	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	38.7	35.2	33.2
	話す・聞く能力	71.0	66.8	64.6
	書く能力	49.7	47.4	45.6
	読む能力	61.3	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

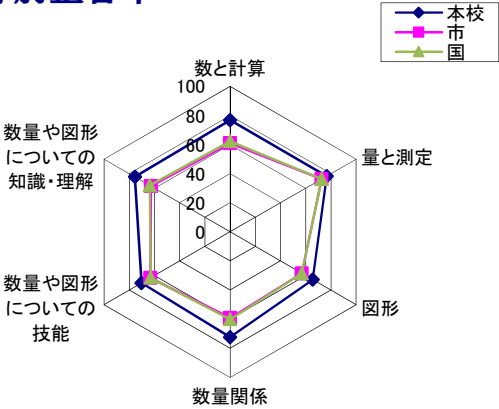
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、国語Aが93.5%で、全国平均を2.7ポイント上回り、国語Bが71.0%で、全国平均を6.4ポイント上回る。 ○ 計画的に話し合うために司会の役割を捉えたり、話し合いの参加者として質問の意図を捉えたりすることができている。これは、学校全体で話し合い学習を推進してきた成果であると考えられる。	・今後も各教科の授業で、話し合い学習を効果的に取り入れていく。その際、「海道小スタンダード」を活用して、話し方・聞き方などの学習方法の徹底を図るようにする。
書くこと	平均正答率は、国語Aが83.9%で、全国平均を10.1ポイント上回り、国語Bが49.7%で、全国平均を3.8ポイント上回る。 ○ 自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える設問の正答率は、全国平均を10.1ポイント上回る。 ● 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くことに課題が見られる。	・日記や作文・随筆等の書く活動の中で、意見と理由を区別して、自分の考えを書く指導を継続して行っていく。 ・家庭学習での視写プリントを効果的に活用し、基本的な文章の形式の定着を図るとともに、書くことへの抵抗感をなくしていく。 ・問われたことや条件に対して、要点をとらえて、正しく書けるように指導していく。
読むこと	平均正答率は、国語Aが75.8%で、全国平均を1.8ポイント上回り、国語Bが61.3%で、全国平均を10.5ポイント上回る。 ○ 目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む設問の正答率は、全国平均を15.4ポイント上回った。これは、物語や説明文に書かれている文章を手掛かりとして内容を読み取りながら、自分の考えを明確にするようにしてきた成果である。	・今後も国語の授業において、文章の構成を意識的に考えさせたり、作者の意図や物語文の伏線に注目させたりしながら、内容を的確に押さえることができるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、国語Aが72.2%で、全国平均を5.2ポイント上回り、国語Bが61.3%で、全国平均を10.5ポイント上回る。 ○ 日常生活で使われている慣用語の意味や、敬語を適切に使う設問の正答率は、全国平均を大きく上回る。 ● 漢字を文章の中で正しく使用したり、主語と述語の関係に注意して正しく文章を書いたりすることに、個人差がみられる。	・今後も日常生活の中の具体的な場面で、敬語の使い方を活用していくようにする。 ・既習事項の漢字や文章の構成については、日記の中で具体的に使用したり、家庭学習等で復習したりするなど、個人差に応じて丁寧に指導していく。

宇都宮市立海道小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

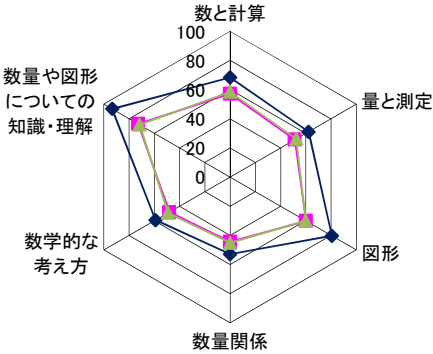
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	76.8	60.9	62.3
	量と測定	76.6	72.6	72.7
	図形	65.6	56.9	56.9
	数量関係	72.3	59.2	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	70.3	63.2	63.0
	数量や図形についての知識・理解	75.6	62.9	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	68.3	57.1	58.4
	量と測定	62.1	51.3	52.4
	図形	80.6	60.1	59.9
	数量関係	52.9	44.4	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	59.1	48.2	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	93.5	72.9	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

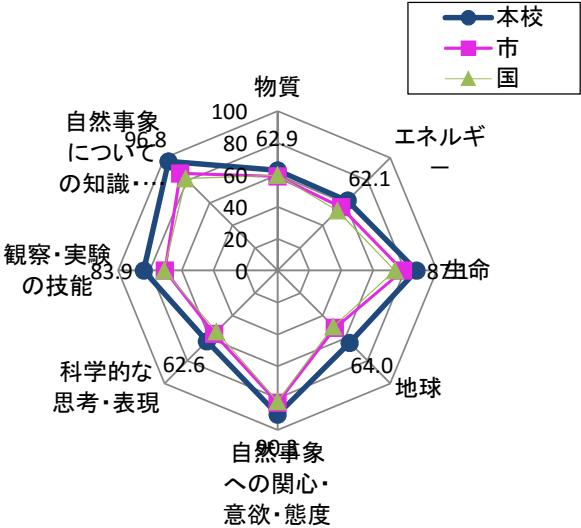
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、算数Aが76.8%で全国平均より14.5ポイント上回り、算数Bが68.3%で全国平均より9.9ポイント上回る。 ○ 小数が含まれる計算や3桁の整数の大小の比べ方などについてよく理解し身に付いている。 ● 他の領域と相互的に関連させて問題を読み取り、根拠となることを明確に式や言葉を使って記述することに課題が見られる。	・知識としてしっかり身に付けたことを活用する力を伸ばすために、数と計算の領域のみならず、他の領域と関連させた問題を児童の興味に合わせて考え、授業で取り上げるようにする。 ・今後も、既習の内容の復習を宿題や朝の学習で行い、確実な定着を図るようにする。
量と測定	平均正答率は、算数Aが76.6%で全国平均より3.9ポイント上回り、算数Bが62.1%で全国平均より9.7ポイント上回る。 ○ 異種の二つの量のうち一方の量がそろっている時の込み具合の比べ方や、単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味をよく理解している。 ● 180°よりも大きい角の大きさの求め方に課題がある。	・日常生活の中から問題を作成し、実生活の中で活用できるような力を身に付けさせていく。 ・分度器を実際に使用して、様々な所の角度を測るなど体験活動を取り入れて理解を深める。その際意図的に180°よりも大きい角を設定し、求め方を理解できるようにする。
図形	平均正答率は、算数Aが65.6%で全国平均より8.7ポイント上回り、算数Bが80.6%で全国平均より20.7ポイント上回る。 ○ 図形の構成要素や性質をよく理解し、活用した問題を解くことができています。 ● 円周率が3.14であることを知識としてもっているが、どうして3.14なのかという根底の理解に課題がある。	・公式を覚える際に、どうしてその数や式が成り立つのかを、デジタル教科書や模型などを利用して視覚的に指導することで理解を深める。 ・身に付けた知識を実生活の中で深めていけるように、日常生活の中に隠されている図形について取り上げる機会を増やす。
数量関係	平均正答率は、算数Aが72.3%で全国平均より12.2ポイント上回り、算数Bが52.9%で全国平均より7.8ポイント上回る。 ○ 算数Aの百分率を求める設問では、全国平均を27.7ポイント上回る。また、百分率を求める問題や、示された情報を解釈し、条件に合う時間を求める活用問題がよくできている。 ● メモなどの情報とグラフを関連付けて着目することを考えたり、異なるグラフから正確に情報を読み取ったりすることに課題が見られる。	・新聞などを利用し、様々なグラフを読み取る活動を取り入れる。読み取ったことをグループ活動などで、共有し合うなどの学び合いを通して、いろいろな見方と表現の仕方があることに気付かせる。 ・表現する時に最適なグラフを選択できるように、それぞれのグラフの特徴を理解させる。

宇都宮市立海道小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	62.9	59.0	59.8
	エネルギー	62.1	56.4	53.1
	生命	87.1	78.6	73.6
	地球	64.0	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	90.3	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	62.6	56.1	54.1
	観察・実験の技能	83.9	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	96.8	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	平均正答率は62.9%で、全国平均を3.1ポイント上回る。 ○ 水溶液のろ過の操作方法を選ぶ設問の正答率は、全国平均を12.8ポイント上回る。水溶液を区別したり、溶けているものを取り出したりする実験方法を身に付けている。 ● 実験結果から言えることだけに言及した考察の書き方に課題が見られる。	・ 課題解決学習を継続して行い、理科の学習の楽しさを味わわせる。 ・ 考察をする際に、学習のめあてや予想を確認すると共に、条件統制に着目させることで、結果に対する正しい考察ができるようにする。
エネルギー	平均正答率は87.1%で、全国平均を9ポイント上回る。 ○ 太陽の1日の位置の変化に合わせた光電池の適切な位置や向きを選ぶ設問の正答率は、全国平均を35.5ポイント上回る。太陽の位置の変化と光電池の適切な使い方を理解し、活用する力がある。 ● 電流の流れについて、自分の回答とは異なる予想を基に検流計の針の向きとメモリを選ぶ設問の正答率は、全国平均を12.2ポイント下回る。また、教科書に載っている模範解答にとらわれず、自由に発想し、それを検証していくことに課題が見られる。	・ 予想や仮説を立てたり、実験方法を考えたりする際には、教科書に載っていることや常識などに固執せず、既習事項や生活経験を基に自由に考えさせ、それを実際に試すことで、科学的な見方を育成すると共に、理科の学習への興味・関心を高めさせる。 ・ 日常生活での疑問「なぜ」を大切にしながら、課題を日常の事象と結び付けて理解させるようにする。
生命	平均正答率は69.3%で、全国平均より13.5ポイント上回る。 ○ 人の腕が曲がる仕組みについて正しい説明を選ぶ設問の正答率は、全国平均を24ポイント以上、上回る。動物のからだのつくりについて理解していると共に、生物に関する興味・関心が高く、それらを大切にしようという気持ちが育っている。	・ 学校の周りの自然環境を活用し、動植物とふれ合う中で、生命に関する興味・関心を高めていく。 ・ 観察では、実物を扱うと共に、動画や模型など視覚的に分かりやすい教材を用意し、理解を深めていく。
地球	平均正答率は64.0%で、全国平均を14.5ポイント上回る。 ○ 流れる水のはたらきについて知識を問う設問の正答率は100%で、全国平均を16.4ポイント上回る。流れる水のはたらきについて、生活体験や学習したことを基に、実感を伴って理解していると考えられる。 ● 実験結果から考察したことを自分の言葉で記述することに課題が見られる。	・ 学数のめあてを把握し、予想や仮説に基づいて実験に取り組ませるとともに、実験結果から考えられることを自分の言葉で文章化することで、科学的な思考力・表現力を育成する。 ・ 観察や実験から分かったことを、まずは自分の力だけで考え、それをグループで共有し合うなどの学び合いを通して、いろいろな考え方や表現の仕方があることに気付かせると共に、自分の考えに自信がもてるようにする。

宇都宮市立海道小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

★傾向と今後の指導上の工夫

○「自分には良いところがあると思いますか」「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合が100%であり、県や全国の割合よりも10ポイント以上上回っている。担任の日頃の声掛けや、学級の中における一人一人を大切にしてきた指導の成果であると考えられる。今後とも担任と児童、児童と児童との望ましい人間関係を育てながら、児童の自己肯定感を高めていけるような指導を行っていく。

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問に『している・どちらかといえばしている』と肯定的に回答した児童の割合が81.3%であり、県や全国の割合よりも市を10ポイント以上上回っている。家庭学習の重要性を伝えたり、自分で学習計画を立てて学習したりする有効性について、指導してきた成果であると考えられる。また、家庭での保護者の声掛けなども大きな助けになっていると考えられる。今後とも家庭学習の大切さや具体的な方法を伝えていくとともに、児童自身が自分のやり方に適した方法で学習していけるように声をかけていく。

●「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」の質問では、『全くしない』に回答した児童の割合が50.0%と、全国の数値よりも31ポイント低い。また、「放課後に何をして過ごすことが多いですか」の質問に『家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている』と回答した児童の割合が84.4%と全国よりも3.4ポイント高かったことにも関連があると思われる。今後、児童が読書を通して新しい価値観や世界観に触れる機会を増やせるように丁寧に指導していく。

●「地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか」の質問では肯定的な回答が県や全国を下回っている。これは、児童が家庭科や書道などの学習において日常的に地域の学習ボランティアの方々に教えてもらえるため、身近に感じているからと思われる。今後は、『地域に開かれた学校』としてボランティアの方々の協力が大きいことを児童に丁寧に伝えていくようにする。

宇都宮市立海道小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業における話し合い活動の充実	授業の話し合い活動や学び合い活動において、自分の意見の根拠を明確にして話す習慣や、友達の意見と比べて聞く学習を進めるようにする。	計画的に話し合うために司会の役割を捉えることが87.1%、話し合いの参加者として質問の意図を捉えることが90.3%とできている。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	5・6年生は1日60分以上を目標時間として行う。家庭学習は、宿題と自主学習とし、宿題は授業の復習内容のプリント類、自主学習は家庭学習ノートを活用して、毎日提出するよう指導する。	「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問に『している・どちらかといえばしている』と肯定的に回答した児童の割合が81.3%であり、県や全国の割合よりも市を10ポイント以上上回る。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
算数「量と測定」「数量関係」の領域における正答率が、市や全国のポイントとよりやや低い傾向にある。また、文章の中で漢字を使う問題では個人差が見られる。	学習内容の定着を図るための学習活動の充実	単元の導入時などに前学年までの内容を復習したり、家庭学習等で繰り返し取り組ませたりして、一人一人の確実な定着を図るようにする。また、学習した内容を日常生活の中で活用できるような力を身に付けさせていく。